



第5回 よみがえれ! トキ

ぶんや

佐渡「文弥人形」

上演会 農・くらし・文化 伝えたいものがある



海岸から標高400メートルの「天上田」にまで棚田が及ぶ佐渡島・野浦。
野生のトキが最後までくらし続けていたこの地で、
「もう一度、トキと人が共にくらす環境を取り戻そう」と、
パルシステム『トキを育むお米』の生産者が活動が続いています。
半農半漁のくらしを続けるかたわら、
300年以上続く「文弥人形」の稽古に汗を流す野浦の生産者たち。
トキも有機農業も、そして文化も、支えるのは人々の絆。
トキを復活させることは、時代をみなおすこと、
くらしをみなおすということ。
トキ復活の物語は、野浦の人々の営みを知り伝え、
伝統芸能にふれることから始まります。

ぶんや

「文弥人形」

国の重要無形民俗文化財に
指定された人形芝居。
佐渡の文弥人形は
ひとりが一体の人形を
ダイナミックに操るのが特徴。
人の持つ「情」をテーマに、
伝説の物語を深く印象的に
表現します。

日時

11/16日(土)

12:30(開場)

13:00(開演)-16:30(終了予定)

会場 東京おもちゃ美術館

東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内

鑑賞料 500円

特典:『トキを育むお米』200g
プレゼント



主な内容

- 佐渡・野浦の有機農業、
里山里海を守る活動の紹介
- 祝いの舞「春駒」
はりこま
- 文弥人形
おうしゅうあだち はら

【演目】「奥州安達が原3段目」



『トキを育むお米』生産者が中心の一座、双葉座

ふだんは有機農業を営む生産者が、300年の伝統がある「文弥人形」
を上演します



主催 よみがえれ! トキ 文弥人形上演会実行委員会 委員長 佐々木 博子

【上演会に関する問い合わせ先】よみがえれ! トキ 文弥人形上演会実行委員会事務局(パルシステム連合会 産直・商品活動部交流政策課) TEL 03-6233-7207(月~金 10:00~17:00)

よみがえれ! トキ 文弥人形上演会実行委員会

4つのテーマ

1. 産直を通して、地域社会や環境を守る運動を広げていきます。
2. 有機農業、環境保全型農業を進めていきます。
3. 伝統芸能を通じて、都市と農村の文化交流を進めていきます。
4. 作る人、食べる人、すべての人が協力していきます。

国の重要無形民俗文化財

「文弥人形」

「文弥人形」は、新潟県佐渡市に伝わる国の重要無形民俗文化財のひとつ。文弥人形は江戸時代に金山で栄え、歌舞伎や能の文化が発達した佐渡で盛んに行われていた人形芝居がルーツです。明治時代のはじめ、盲人の座語りとして語られていた文弥節を佐和田町沢根の伊藤常盤一（いとう ときわいち）が語り、小木町の人形遣いの大崎屋松之助（おおさきや まつのすけ）が腰幕の内側に組み立て式の枠を組み、四枚のふすまを立てて二重舞台に改良しました。ひとりが一体の人形をあやつるため、着物の下から手を入れるのではなく、背を裂いて手を入れる遣い方になり、頭も自在に動くように工夫されました。大きな動きと表現が可能となり、佐渡の人形芝居は一新されました。



文弥人形は、背中から手を入れて操る

伝統を守り、未来に受け継ぐ

文弥人形と 野浦・双葉座の人々

島内に文弥人形を演じる座は10座ほどあり、佐渡人形芝居保存会を結成しています。なかでも野浦・双葉座は、昭和54年、初代座長臼杵司（うすき つかさ）氏の発案で8人の有志により発足。座員は半農半漁の暮らしをしながら、週1回厳しい稽古に励み、300年の伝統芸能を守っています。結成から30年を超え、島内での公演は500回以上と島内一の座に成長しました。現在の座長、北野源栄（きたの げんえい）氏のもとトキ神社の臼杵（うすき）宮司や唄と踊りの名手、羽豆正義（はす まさよし）さん、語りの山本定夫さんなどのベテラン勢が、若手を指導しながら日々研鑽しています。

演 目 紹 介

はりこま

春駒

元々は正月の門付け芸能。めでたい祝いの席などで魔を払い、福を祈って舞われた伝統芸能です。佐渡金山最盛期に財を成した山師の顔がモデルといわれるユニークな面。70年前から伝わる華麗な古代文様の装束も見もの。



おうしゅうあだち はら

奥州笏達が原3段目

源氏方の武士、謙杖直方（けんじょうなおかた）の娘袖萩（そでばぎ）。親に背いて敵である安倍貞任（あべのさだとう）と夫婦となりましたが、戦の中で夫と生き別れとなってしまいます。袖萩は物乞いとなり盲目に。やがて雪の降りしきる中、父直方の御殿にたどり着きますが、中に入る事すらできません。その後、袖萩は貞任の弟宗任（むねとう）に見つけ出されてしまいます。宗任は、安倍氏の敵である父直方の首を討てと、懐剣を渡して迫ります。困り果てた袖萩は自害し、直方も切腹します。その様子をのぞく桂中納言（かつらちゅうなごん）の正体とは…。

このイベントは、以下の団体・企業にご賛同いただいています。

■生活協同組合 パルシステム生活協同組合連合会、生活協同組合パルシステム東京、生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ、生活協同組合パルシステム千葉、生活協同組合パルシステム埼玉、生活協同組合パルシステム茨城、生活協同組合パルシステム山梨、生活協同組合パルシステム群馬、生活協同組合パルシステム福島、生活協同組合パルシステム静岡

■関連企業・団体 株式会社ジーピーエス、木徳神糧株式会社、SBSゼンツウ株式会社、株式会社シタス&ゼネラルプレス

■後援 佐渡市

■主催 パルシステムよみがえれ! トキ 文弥人形上演会実行委員会 委員長 佐々木 博子

【上演会に関する問合せ先】 よみがえれ! トキ 文弥人形上演会実行委員会事務局

（パルシステム産直・商品活動部交流政策課）TEL 03-6233-7207

田んぼからはじまる物語

トキが舞う未来へ

トキの野生復帰の活動が続く佐渡島で、2012年5月、36年ぶりに野生のトキのひなが誕生。野生復帰に向けて期待が高まっています。ドジョウやカエル、昆虫をさかんに食べるトキの餌場は田んぼ。佐渡島の野浦・片野尾両地区では、有機農業を中心とした棚田の米作りに生産者が取り組んでいます。耕作されなくなった棚田を再生したり、生きものを育むため、「ビオトープ」というため池を作ったり、田んぼに水をひきこむ部分に「江」と呼ばれるよどみを設けたりしています。また、トキ保全をテーマにした教育活動や環境保全の指導を続けるNPO法人トキの島、中島明夫さんのように、農家以外の島の人々も活躍しています。



標高400メートルまで棚田が続く佐渡島・野浦地区。かつては片道2時間もかけて海岸の村から徒歩で通った



島内の田んぼで行われた生きもの調査の様子。田んぼには、トキの餌となるカエルやドジョウがたくさんすんでいる



パルシステムの予約登録米『トキを育むお米』

見どころ!

母浜夕は娘と知りつつ、祭文（物乞いの歌）を歌わせませす。袖萩はあわれな身の上を弾き語ります

見どころ!

正体を見破られた桂中納言。公家から荒々しい武士へと変貌し、源義家に果たし合いを約束して去っていきます

会場 東京おもちゃ美術館

〒160-0004

東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内

TEL 03-5367-9601

東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」

2番出口より徒歩5分

※駐車場の用意はございません。

公共の交通機関をご利用ください。

